

協働実践研究会・北京支部 第4回研究会報告

I. 実施日 2014年12月20日 12:45~14:15 (90分間)

II. 実施会場 北京外国語大学北京日本学研究センター405教室

III. 出席者 20名 (日本語教師、日本語教育機関職員、大学院生など)

IV. 内容

12:45 ~13:05	フリップを使った 自己紹介	(1)「協働学習」を漢字一文字で表すと…? (2)「協働学習研究会」を通して学びたい事は? というテーマでフリップにキーワードを書いた上で全体共有を行った。
-----------------	------------------	--



13:05 ~13:50	協働学習の 実践例を体験 駒澤千鶴 (北京国際関係学院)	○相互交換式「誤用訂正」○ 事前に日本語と中国語の誤用訂正の問題を配布し、参加者は回答を考えた上で活動に参加した。当日は参加者が準備してきた回答をランダムに周囲の参加者と交換し、まず、自分自身の考えと他者の考えの差異を確認した。その上で、正答をひとつに限定せず、「多様な考え方を知る、許容する」という観点から、誤用訂正問題の振り返りを全体で行った。
-----------------	--	---

【課題例】以下は、問題があると考えられる日本語・中国語である。その部分を指摘し、訂正しよう。

李「この口紅素敵ね、
どこで買ったの？」
林「西単のデパートで」
(正答例) この→その

この口紅素敵ね。
どこで買ったの？



西単の
デパートで

他毕业名牌大学，虽然对工作充满热情，但还是不如其他工程师经验丰富。

(正答例) 他毕业名牌大学→他毕业于名牌大学 または 他毕业名牌大学→他名牌大学毕业

13:50 ~14:10	「協働学習」の 入門的解説 菅田陽平 (北京第二外国語大学)	①「きょうどう」という言葉について ②「協働学習」の内容 ③「協働学習」を中国でどう活用していくのか 上記の3つのポイントから、解説および参加者への問題提起を行った。
14:10 ~14:15	全体のまとめ 朱桂栄 (北京外国語大学北京日本学研究 センター)	①協働について知る ②参加者自身が協働学習に参加する ③協働学習とは何か、どう実践・実現していくのか考える ④参加者自身の教室で協働学習をやってみる ⑤参加者自身の協働学習の実践を勉強会に持ち寄る ⑥再び参加者自身の教室で協働学習を活用する 「知る、参加する、考える、やってみる、持ち寄る、活用する」を北京支部の合言葉とし、協働学習の内容や協働学習を通して得た気づきを勉強会に持ち寄り、他の参加者と振り返りを行うという勉強会の目標を確認した。

勉強会の後、各自が「勉強会の振り返り」を書き、メールで事務局に提出してもらった。内容は次回、全体共有する予定。

V. 今後の方針

協働について、「知る、参加する、考える、やってみる、持ち寄る、活用する」という目標を達成するための「学びの共同体」となる勉強会の場を定期的に提供する。(次回の勉強会は冬休み明けの3月に開催を予定。)